



祝 辞

岡山県知事

長 野 士 郎

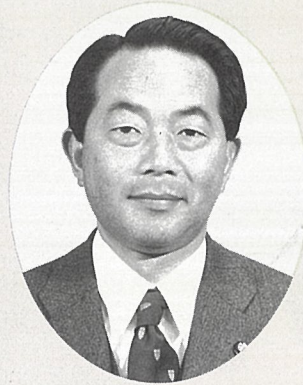
社団法人岡山工業会がこのたび創立30周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

貴工業会は昭和36年の設立以来、会員の技術の向上を目指し、時代に即応した研修を積極的に実施され、企業の飛躍の基礎となる人材の育成に力を注がれるとともに、従業員の福利厚生を図る各種事業についても共同して取り組んでおられ、その活発なご活動に深く敬意を表する次第でございます。

さて、本県におきましては高速自動車道等広域交通網の整備により中四国の中核拠点としての位置づけが一層高まり、経済、学術、文化などの面で大きな飛躍が期待されているところでございます。

今後皆様方にはこれらの有利な条件を生かしながら、広域的な視点に立ち、工業技術の向上等所期の目的の達成に向かってさらなるご尽力を続けていただきますようお願いいたしますとともに、県といたしましても出来る限りの支援をしてまいる所存であります。

終わりに、社団法人岡山工業会がこの30周年を1つのステップに、21世紀に向けて一層発展をされますことを祈念して、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

岡山市長

安 宅 敬 祐

社団法人岡山工業会が、30周年をお迎えになりますことを心からお喜び申し上げますとともに、創立以来市政各般に亘り、格別の御理解と御協力を賜っておりますことに対し、厚くお礼申し上げます。

また、その足跡を振り返り、来たるべき21世紀への道標として記念誌を発刊されますことは、誠に意義深いものとお祝い申し上げます。

近年の世界情勢は、東西ベルリンの壁崩壊からソ連共産党解体に至るなど激動が加速される一方、国内における最近の産業界を取り巻く経済環境は、史上最長の成長を続けてきた記録的な好況も鈍化の徴候を示し、深刻な人手不足・バブルの崩壊また、貿易不均衡問題や為替相場の先行き不透明感などとともに先行きが懸念されており、厳しい状況下にあります。

こうした中、貴工業会におかれましては、創立以来、厳しい経済社会の変動に伴う幾多の困難を会員相互の堅い団結と協調の精神で克服され、今日では岡山の工業の指導的役割を果たされておりますことに対しまして心から敬意を表する次第であります。

どうか、会員の皆様方におかれましては、30周年を契機とし、ますますの一致団結と協力のもと、21世紀に向けて一層飛躍されますことを御期待いたしております。

終わりに、社団法人岡山工業会の限りなき御発展と会員皆様方のますますの御繁栄と御健勝をお祈りいたしましてお祝いの言葉といたします。



祝 辞

岡山商工会議所会頭

伊原木 一 衛

社団法人岡山工業会がめでたく創立30周年を迎えられ、心からお慶びを申し上げます。

ご承知の通り、岡山県が農業県から工業県へと大きく転換いたしましたのは、新産都の優等生といわれた水島臨海工業地域の開発が軌道に乗った昭和30年代の後半から40年代にかけてであります。昭和36年2月、この急速に進む工業化の流れの中にあつて、地場中小企業の育成発展を目指し、協同組合岡山鉄工センターのメンバーをはじめとする当地域の中小機械金属工業の方々64社が結束して岡山工業会が設立されました。技術の向上・生産の合理化・設備の近代化等を進められ、また、幾度となく厳しい経済変動に見舞われながらも、会員相互の強固な団結と協調によりこれを克服してこられました。年々組織も拡充し、現在では会員数も106社を擁するまでに発展され、岡山地域の工業の振興に先導的役割を果されております。

激動の続く国際経済社会にあつて、我が国の産業界を取り巻く経営環境は誠に厳しいものがございしますが、中原希世士理事長を始め、会員の皆様方一致団結され、21世紀に向けて新たな第一歩を踏み出していいただくとともに、当地域の産業振興のため一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、社団法人岡山工業会の益々の発展と会員各社の一層のご繁栄を祈念いたしましてお祝いのご挨拶といたします。

歴代理事長



昭和36年～昭和59年

鴻 上 芳 雄



昭和59年～昭和63年

湯 浅 和 夫



昭和63年～平成3年

小 橋 照 久



平成3年～

中 原 希 世 士

(現理事長)

社団法人岡山工業会役員名簿

(順不同)

役 名	氏 名	所 属
理 事 長	中 原 希世士	株式会社中原製作所
副理事長	桑 原 忠 義	有限会社桑原鉄工所
〃	坂 下 義 夫	セイレイ工業株式会社
専務理事	沼 資 一	岡山市経済局商工観光部
理 事	浅 越 昭二郎	アサゴエ工業株式会社
〃	伊 丹 達 次	株式会社伊丹製作所
〃	太 田 英 利	オオタ株式会社
〃	大 熊 博 之	オカネツ工業株式会社
〃	大 森 晃	株式会社クレスコ
〃	勝 矢 一 成	カーツ株式会社
〃	神 原 基 彰	有限会社神基重工
〃	栄 谷 川 平	山陽電研株式会社
〃	高 山 寅 尾	高山工業株式会社
〃	鴻 上 光 宣	光軽金属工業株式会社
〃	藤 原 章 夫	藤原醸機産業株式会社
〃	淵 本 金 次	淵本重工業株式会社
〃	森 徹	モリマシナリー株式会社
〃	湯 浅 信 夫	ユアサ工機株式会社
〃	松 本 征 二	岡山市経済局商工観光部商工振興課
監 事	堀 江 信 之	有限会社堀江鉄工所
〃	光 畑 茂	株式会社光畑製作所

社団法人岡山工業会概要

◎発祥

昭和36年当時、岡山市内における機械工業を中心とした地場中小工業は設備の老朽化、多種小量生産企業の乱立、技術水準のおくれ等から著しい後進性を有しており、貿易自由化を直前にひかえてこれら中小企業の体質改善は急を要し、しかも水島工業基地は、日本五大工業基地として大きく脚光をあびており重化学、機械産業を中心とした新しい工業都市建設が日夜進められている状態でありました。

かかる現状からして大企業との系列化提携化を図り全体の工業基盤を拡大するためには早急に個々企業の近代化、合理化を推進する必要がありました。

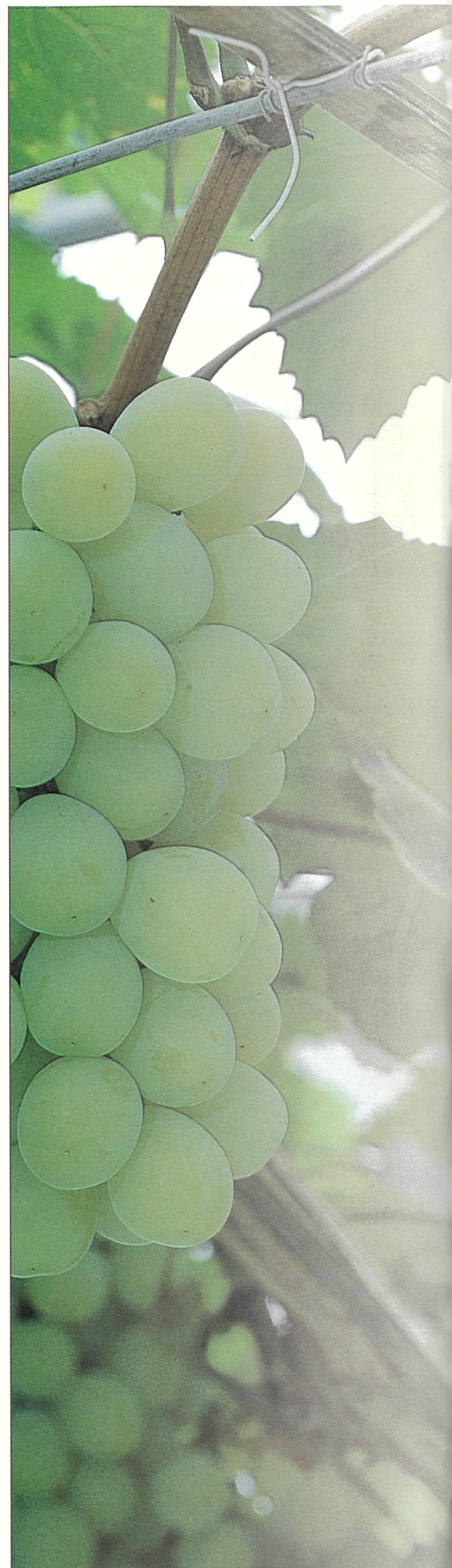
昭和36年3月31日岡山工業振興協会理事会を開催のうえ、同協会を発展的に解散し、これを母体として、同年4月9日急激に発展している工業水準に対応するため、岡山地域の金属機械工業の有志を中心に団結を図り、企業の近代化、合理化を推進し、その発展を期すべく社団法人岡山工業会が創立されました。

名称	社団法人岡山工業会
所在地	岡山市大供22の2 岡山市経済部商工課内
理事長	鴻上芳雄
予算額	198,553円
会員数	41名

◎現状

名称	社団法人岡山工業会
所在地	岡山市大供一丁目1の1 岡山市経済局商工観光部商工振興課内
理事長	中原希世士
予算額	6,695,489円
会員数	106名

社団法人 岡山工業会 30年の歩み



- ▶昭和36年 3月31日
岡山工業振興協会解散、直ちに社団法人岡山工業会設立委員会開催。
- ▶昭和36年 4月5日～4月9日
第1回近代工業機械展
県市共催で近代諸機械と新しい工業材料を紹介し、その利用を奨励して業界の振興を図った。
(第1会場 岡山市公会堂)
(第2会場 烏城公園)
第3回農機具奨励実演展
県市共催で県産品の県内愛用奨励を促進。
(会場 烏城公園)
- ▶昭和36年 4月9日
(社)岡山工業会発足記念大会
優秀経営者及び優良従業員の表彰
- ▶昭和36年 7月15日
工場経営者講習会
工場経営の改善向上を図った。
(会場 産業会館)
- ▶昭和36年 8月2日～10月28日
労働文化講座
工場事業所の指導的中堅幹部の質的向上を図った。
(会場 上之町会館外3ヶ所)
- ▶昭和36年 8月12日・16日・19日
ゴム技術講習会及びゴム技術入門講座
(会場 産業会館)
- ▶昭和36年11月10日～16日
秋田県での岡山農機具即売会
「第48回秋田県種苗交換会全国優良農機具実演展示会」会場を利用し、会員10業者出品販路開拓する。
- ▶昭和37年 2月27日
溶接技術コンクール
(会場 県工業試験場)
- ▶昭和37年 5月2日～7日
第2回近代工業機械展
(会場 岡山県体育館)

- ▶昭和38年 4月10日～15日
第3回近代工業機械展
(会場 岡山県体育館)
- ▶昭和38年 5月2日
昭和38年度通常総会
指定金融機関への連帯保証について
岡山工業会会費徴収について
- ▶昭和38年 5月9日
ソ連への親善使節
鴻上理事長、ソビエト連邦共和国から日本国際貿易促進協会関係の業界代表親善使節として招待され訪ソ視察す。
- ▶昭和39年 3月1日～4月30日
公害防除診断並びに経営診断
会員工場の工業施設のもたらす公害調査問題の有無、並びにこれに関連する経営能率の測定、分析を実施。
- ▶昭和40年 4月1日
指定金融機関三菱銀行岡山支店と融資にともなう契約書締結。
- ▶昭和40年 3月1日～4月30日
公害防除診断並びに経営診断
- ▶昭和41年 3月1日～4月30日
公害防除診断並びに経営診断
- ▶昭和42年 3月16日・17日
模範工場の視察調査
(行先 四日市機械金属団地及び模範工場)

